

事業名	新型コロナウイルス感染対応緊急支援助成 最終審査会
開催日時	2020年9月19日(日) 13:30~17:00
会場	熊本 YMCA
目的	書類審査通過後の研修等を通してブラッシュアップした申請団体による発表や質疑応答を踏まえ、助成先(7団体程度)を決定する ⇒各申請団体が他団体の発表や質疑応答にも参加し、お互いにフィードバックし合うことで、団体同士の関係性を育み、今後の連携・協働へつなげる
審査員	木村真樹(合同会社めぐる代表:オンラインで参加)・日野充弘(熊本 YMCA 本部事務局長)・吉岡久美(九州看護福祉大学准教授)・岩本守弘(ファイナンシャルプランナー)・石原 靖也(くまもと未来創造基金理事)
参加団体	9 団体 子どもの第3の場でいんぐる運営委員会(複)/熊本県子ども見守りネットワーク(複) 認定 NPO 法人 NEXTEP/(株)きらりコーポレーション/(医)トータルメディカルケア あらたまハートブランド協議会/NPO 法人ひなたぼっこ/NPO 法人シンフォニことばの海はぐぐみの森/ 一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO(複)
スタッフ	熊本 YMCA:中村賢次郎一般財団法人くまもと未来創造基金(宮原美智子・小田川望・本多清美)
内容	13:30-13:35 主催者あいさつ 13:35-13:45 今日のねらい&進め方の共有、審査委員のご紹介 13:45-15:00 計5団体の最終審査【1団体につき発表7分+質疑応答7分】 ①子どもの第3の居場所でいんぐる運営委員会 ②熊本子ども見守りネットワーク ③認定 NPO 法人 NEXTEP ④(株)きらりコーポレーション ⑤(医)トータルメディカルケア 15:00-15:15 休憩 15:15-16:15 計5団体の最終審査【1団体につき発表7分+質疑応答7分】 ⑥あらたまハートブランド協議会 ⑦NPO 法人ワークショップひなたぼっこ ⑧NPO 法人シンフォニことばの海はぐぐみの森 ⑨一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO 16:15-16:45 審査委員は別室へ移動して助成先を決定(発表は後日) 参加団体は交流タイム:ポストイットの交換等 ⇒各申請団体の参加者には2色×9枚のポストイットを配布 ⇒各団体の発表等を聴いて「いいね!」「アドバイス」をポストイットに記入
審査結果	7 団体通過:子どもの第3の居場所でいんぐる運営委員会/熊本子ども見守りネットワーク/ 認定 NPO 法人 NEXTEP/(株)きらりコーポレーション/ NPO 法人ワークショップひなたぼっこ NPO 法人シンフォニことばの海はぐぐみの森/一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO ※通過団体の中には、財務状況や資金計画について確認や調整が必要な団体がいくつかあり、今後ヒヤリングを通して、助成金額を調整していく。また、今回落選となった団体にも、別の助成金を紹介し、今後の伴走支援の中の合同研修には参加を促し、団体や事業の支援を行っていく。

審査員 の評価等	<p>吉岡:最終審査で予算金額変更があった団体もあり、変更の理由までは見えていない。本当にコロナ禍で困っている人たちの就労につながるのかの視点が必要。</p> <p>岩本:どの計画も世の中が良くなるための活動で、健全運営されるのであれば、全部の団体に出したいくらい。今後も伴走で協力していきたい。</p> <p>日野:熱意を持ったプレゼンで、今日は充実した時間だった。落選した団体とも今後つながって、一年後に全体の協力体制ができていけるように関わっていきたい。</p> <p>木村:タイトなスケジュールの中、コミットしていただいた審査員の皆様に感謝します。今回のようにオンラインで審査に参加するのは初めてだったが、今後このスタイルがニューノーマルとなっていくと思う。今回の伴走支援付き助成事業は、他県からも興味を持って見てもらっている。今後ブラッシュアップしながら事業を進めていき、一年でどのような変化が起こるのか、審査員、事務局みんなで体験していただけるとありがたい。</p>
今後の 予定	<p>①内定・不採択の決定(19日)通知 23日メールにて連絡</p> <p>②9月28日内定団体の公表(HP上)内定団体</p> <p>③契約に向けた手続き(事業計画書・資金計画書ヒアリング修正) *申請金額についてはヒアリング専門家審査の上修正あり)・9月24日～30日でヒアリング予定</p> <p>④本事業用の通帳作成</p> <p>⑤申請提出書類の整備、提出</p> <p>⑥本契約に向けた手続き</p> <p>⑦助成金振り込み(10月末予定 2020年度分)</p> <p>10月より助成事業開始</p> <p>○4回の合同研修(10月・1月・4月・7月)</p> <p>○毎月各団体に進捗状況のヒアリング</p> <p>○6か月ごとに報告書提出</p>
交流会 参加団体 の感想	<p>・ブラッシュアップ研修から最終審査まで1週間しかなかったので、自分の団体の発表資料を修正するのが精一杯だったが、もう少し猶予があれば、他の団体とコンソーシアムとして一緒に事業を行えたのではないかと思う。</p> <p>・他の団体の発表を聞き、このような縁をいただいたことに感謝したい。これからも協力しながら一緒に頑張りたい。</p> <p>・ポストイットのご意見で「ネットワーク構築について見えにくい」とあった。その点の説明が不十分だったと悔やまれる。</p>
最終審査 会の成果 と課題	<p>・ブラッシュアップ研修で、発表を見合ったり、アドバイスを受けたことにより、各団体ごとに発表内容に工夫がみられた(事業のニーズ、目標、事業内容、成果目標、助成後の計画など)</p> <p>・第1次書類審査結果とプレゼン発表での評価に違いがあった(申請書だけでは読み取りにくい内容を聞くことができた)。</p> <p>・内定団体は決定したが、今後実行内定団体と資金分配団体担当との間で、事業計画や資金計画の再調整を行っていく。その中で審査会で出た課題についてしっかりとヒアリングしながら、最終決定・契約に向けての手続きを行っていききたい。</p> <p>・申請団体同士の交流会により、団体同士の交流が生まれ、連携希望の意見も出てきたことは、本事業での最終的な目標「災害やクライシス時の支援体制・連携」に向けて意識づけができてきている。</p>

最終審査会の様子

主催者あいさつ
説明



団体発表

7分発表
質疑応答



交流タイム

ポストイットに感想
良かった点など

各団体で振り返り

各団体より
本日の感想

